

令和元年度

第11回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和元年8月23日（金）
開会14時5分 閉会15時30分

場 所 教育委員室

令和元年度
第 1 1 回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 議 案

第 1 号議案 教職員の懲戒処分について

第 2 号議案 大分県立図書館協議会委員の任命について

第 3 号議案 大分県立歴史博物館協議会委員の任命について

(2) 報 告

① 第 4 3 回全国高等学校総合文化祭の結果について

(3) 協 議

① 令和元年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

② 県立国東高等学校における新設学科・コースの構想について

(4) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
	委 員	岩 崎 哲 朗
	委 員	松 田 順 子
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	鈴 木 恵

事務局	教育次長	法華津 敏 郎
	教育次長	檜 崎 信 浩
	教育次長	後 藤 榮 一
	参事監兼教育財務課長	佐 藤 誠一郎
	参事監兼福利課長	阿 部 浩 康
	参事監兼特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	教育改革・企画課長	中 村 崇 志
	教育人事課長	渡 辺 登
	学校安全・安心支援課長	簗 田 祐 二
	義務教育課長	内 海 真理子
	高校教育課長	久保田 圭 二
	社会教育課長	石 井 利 治
	人権・同和教育課長	永 井 弘
	文化課長	木 下 敬 一
	体育保健課長	加 藤 寛 章
	教育改革・企画課主幹 (総括)	門 野 秀 一
	教育改革・企画課主査	池 邊 大 介

2 傍聴人

4 名

開会・点呼

(工藤教育長)

それでは、委員の出席確認をいたします。
本日は、全委員が出席です。

(工藤教育長)

ただ今から令和元年度 第11回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名については、岩崎委員にお願いしたいと思います。

会期の決定

(工藤教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は15時25分を予定しています。よろしく申し上げます。

議 事

(工藤教育長)

次に、会議を公開しないことについてお諮りします。

会議は原則として公開することとなっておりますが、第1号議案、第2号議案及び第3号議案は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案、第2号議案及び第3号議案は、非公開といたします。
本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行いますので、よろしくお願ひします。

【報 告】

① 第43回全国高等学校総合文化祭の結果について

(工藤教育長)

それでは、報告の①「第43回全国高等学校総合文化祭の結果について」木下文化課長から報告いたします。

(木下文化課長)

第43回全国高等学校総合文化祭の結果について、ご報告します。

本年度の全国高等学校総合文化祭は、7月27日(土)から8月1日(木)までの6日間、佐賀県佐賀市を中心として同県内20の市・町で開催され、大分県からは、自然科学、パレードを始め21部門に29校330名が参加をいたしました。

5の入賞結果をご覧ください。

大分上野丘高校が自然科学部門の研究発表・化学部門において、最優秀賞を受賞いたしました。大分上野丘高校は、同部門において平成28年度に最優秀賞、平成29年度に優秀賞、平成30年度に奨励賞を受賞しており、今回3年ぶりの最優秀賞の受賞となりました。

続いて由布高校が郷土芸能部門の伝承芸能部門において、2年連続となる文化庁長官賞優秀賞、大分東明高校がパレード部門で4年連続のグッドパレード賞、バトントワリング部門で3年連続となる講評者特別賞、中津南高校と日田高校の連合チームが百人一首かるたでベスト8に入賞し、奨励賞を受賞いたしました。また、個人では、書道部門、放送部門で2名が入賞しています。

今回は、大分県から団体、個人合わせて七つの部門で入賞を果たしており、本県の高校生の頑張りが、入賞という面からも評価できる総合文化祭であったと言えると考えております。

なお、自然科学部門と郷土芸能部門については2ページ目に概要をまとめていますのでご覧ください。

大分上野丘高校化学部の研究ですが、研究テーマは「疎水コロイドを用いた金属イオン濃度の簡易測定法」というものです。これまで、大分上野丘高校化学部は、水酸化鉄コロイドについての研究を重ねており、その中で、この水酸化鉄コロイド溶液をろ紙に展開すると2層に分かれることを突き止めていて、その特徴的な現象が起こるメカニズムを解明し、金属イオン濃度と展開した2層の長さとの間に一定の関係があることを様々な条件下で2千回を超す実験データを取っ

て、一般的な金属イオンにも応用できることを明らかにしたものです。金属イオン濃度を測定するためには、高価な機器や様々な薬品を使用しなければならないのですが、今回開発した測定法は、簡易かつ安価であり、ろ紙に現れる2層の分離比だけで金属イオン濃度の測定をすることができる方法を開発したことが評価されたものと思われま

す。続いて由布高校の郷土芸能部（神楽）ですが、披露した演目は日本神話の一場面である庄内神楽「天孫降臨^{てんそんこうりん}」です。

由布高校は、明日8月24日に国立劇場で開催される演劇・日本音楽・郷土芸能3部門から選ばれた優秀校が出演する「全国高等学校総合文化祭優秀校 東京公演」に、2年連続で出演が決定しています。

報告は以上でございます。

（工藤教育長）

ただ今ありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

（岩崎委員）

今回の受賞を受けて、由布高校郷土芸能部が東京で公演を行うことになったことですが、県内においてもこのような成績を修めた学校の公演や作品を披露する機会がありますか。

（木下文化課長）

全国総合文化祭入賞者だけを集めての披露の場はありませんが、今年はラグビーワールドカップ開催の関係で、公式ファンゾーンが設置されます。その公式ファンゾーンのイベントにて、観戦に来られた方に日本の文化を発信する機会がありまして、そこで県内高校生による郷土芸能や書道などが披露される予定です。

（岩崎委員）

そういった場を設けることによって、そのほかの学校の生徒や関係者のモチベーションを上げる効果も期待できますし、また、それを見た別の学校の生徒の文化部活動に対する共通意識の醸成にもつながりますので、機会があるのであれば、是非やっていただきたいと思います。

（後藤教育次長）

県高等学校文化祭が今年度は11月14日、15日に宇佐市で実施されます。

県内各市町村ごとの持ち回りで毎年度実施されているもので、県内文化部の高校生が互いに発表し合う場になっております。

（松田委員）

由布市の保育園では、土曜日に地域の方が神楽を指導しているところもあり、

幼い頃から神楽に取り組むことで、将来的に由布高校の郷土芸能部に入りたいという思いを持っている子どももいると聞いています。

郷土芸能文化の伝承に地域の方も一緒に取り組んでおり、地域全体が良い流れになっているので、由布高校の今回の結果については、そういった流れに弾みをつける素晴らしいものだと思います。

(林委員)

今回の大分上野丘高校の結果は非常に素晴らしいものだと思いますが、例えば、県内の企業や農業関係者が彼ら高校生が取得した特許や研究内容に興味を示している話など、一歩進んだ発展はしていますか。そういった場所が県内にあって、将来的に彼らがそこに研究者として戻って県内で働こうと思えるような研究内容だと思っているので、それほど県内の高校生のレベルが高いのだということをもっとアピールしてほしいです。

(久保田高校教育課長)

高校生が特許を取得しているということについては、新聞報道等で報じられていとおりますが、企業から特許に関して声が掛かったというような報告は今のところ受けておりません。今後は、こういった場面で研究の成果がいかせるか、また、県内のどんな企業と連携が取れるかしっかりと検証を進めていきたいと思えます。

(林委員)

県内企業と高校生のマッチングという点では、一方的に企業側からのみの情報発信という形だけではなく、高校生の側からも「こういったことがしたい」という意見が言えるような、企業と高校生がお互いに交流できるフォーラムになるといいと思います。

(久保田高校教育課長)

フォーラムについては、現在、企業側が主導して自社に生徒を迎え入れ、研修や話をする場面を作っていますが、今後は、企業側に対して生徒から提案していくことなども含めて、研究内容が企業側に伝わるような取組を行っていきたく考えています。

(高橋委員)

文化の総合的なイベントに企業の方を招待して、様々な発表を通じて企業側へアピールする機会を作る予定はないのですか。

(久保田高校教育課長)

来年度、大分県で全国産業教育フェアが開催されますが、従前より、大分県では毎年度、県内で独自の産業教育フェアを開催しており、そこで産業界のいろいろ

ろな方に関わっていただき、ご支援をいただいているところです。ものづくりを始め、企業と生徒たちが関わる機会はこれまでも設けてきているところですが、来年度は全国大会という大きな規模のイベントが予定されていますので、それをきっかけにして、より一層、企業との意見交換も含め、企業側にアピールできるような場面を作っていきたいと考えています。

【協 議】

① 令和元年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

(工藤教育長)

次に、協議の①「令和元年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」中村 教育改革・企画課長から説明いたします。

(中村教育改革・企画課長)

<説明概要>

- ・点検・評価の枠組（趣旨、点検・評価の実施方法、報告方法など）
- ・目標指標の達成状況
- ・達成率が「著しく不十分」となった指標
- ・8月19日開催の令和元年度第1回大分県長期教育計画委員会における主な意見

(工藤教育長)

ただ今の説明について、質問・意見等のある方はお願いします。

(鈴木委員)

私は、県の長期総合計画の中間見直し委員会の委員でもあるのですが、当該委員会においても、委員の方から教育に関する意見を非常に多くいただきます。しかし、そこでは学校や教育委員会の取組がよく伝わっていないと感じることがあります。

委員の方は、子どもたちの将来、大分県の未来をより良くするために意見を言われていると思うので、大分県長期教育計画委員会の意見についても、是非、大分県長期教育計画の中間見直しにいかしてほしいと思います。

(松田委員)

多くの指標が昨年度より向上している点は良いと思います。しかし、学校別に見てみると、向上している学校と下がっている学校の両方があるので、その分析が大切だと思います。また、「主体的に学ぼうとする生徒の割合」という指標については、「学校が楽しい」「学校が好きである」「先生が好きである」という意識が増えることで、数値が向上するのではないかと思うので、向上している学校

の雰囲気や工夫を見ていくとよいと思います。

「1か月に1冊も本を読まない児童生徒の割合」という指標については、司書教諭が読書をどのように進めていくのかを題材にしたものを司書教諭の研修会の時に取り入れると数値は上がっていくのではないかと思います。

「一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験のある生徒の割合」という指標については、英語教育や道徳教育、プログラミング教育が必要な時代になってくると、英語で会話をする、英語を生活語にする外国人との活動を経験することが大切だと思いますが、どの国の方との活動でも対象となる指標になっているのでしょうか。

(中村教育改革・企画課長)

「外国人と一緒に活動をした経験」については、英語圏の外国人との活動に限定したものではありません。また、学校別の分析をして、向上している学校の雰囲気から学ぶべきではないか、などの意見については、今後の取組に取り入れていきたいと思います。

昨年度の教育委員会においても、高校の「授業がわかると感じる生徒の割合」について、学校別に分析すべきではないかという意見をいただきました。学校別に指標の分析をしたところ、学校別の差もさることながら、同じ学校でも年度で数値が大きく変わっているというような例もありましたので、数値と実際の学校現場の評価とがどう違っているのかということ、継続的に指標を取っていく中で、得られた結果を分析していきたいと思います。

(林委員)

「主体的に学ぼうとする生徒の割合」が低いということは大きな問題だと思います。問題の解決のためにいろいろな学習をしても、それが最終的な問題の解決に結びついていないのではないのでしょうか。今の困難な状況や教育の問題に対して、実際に生徒がどのように貢献したかということの評価してあげられるようなシステムがないといけないのではないのでしょうか。

生徒の「問題を解決したい」という意欲を引き出せるように促すべきだと思いますし、もっと高校生のやっていることを評価してあげて、高校生の取組が役に立っているということと、役に立つために勉強が不足しているところを誰かが言ってあげる必要があると思います。大分県長期教育計画委員会での委員の意見のとおりだと思います。

(高橋委員)

大分県は海外からの留学生が他の都道府県に比べて多いと思いますが、他言語を使用する留学生との交流を、文化交流等も含めて中学校や高校段階でどのようにすべきか、何か考えていることはありますか。

(久保田高校教育課長)

現在、県が行っている事業の中に「地域の高校の魅力化・特色化づくり」というものがあります。この中に、観光名所がある地域については、韓国などからの旅行者も多いという中で、生徒が英語だけでなく、いろいろな言語に挑戦して案内ガイドブックを作成したりしています。こういった取組を他の学校にも広めていけるような環境づくりを積極的にしていきたいと考えています。

(高橋委員)

是非、幅広く交流をしていただきたいと思います。

(岩崎委員)

不登校児童生徒の割合について、家庭に係る状況が多数を占める中で、なかなか有効な手立て講じることが難しいということは分かりますが、専門家との連携

をもう少し深められないかと思えます。もう一步踏み込めないかということも議論していただければと思えます。

(松田委員)

子どもたちを外国人と一緒に活動させる際に、外国人と意思疎通を図るためには何が必要になるかを学ぶ仕組みはできているのでしょうか。

(中村教育改革・企画課長)

今回の指標分析では、そこまで捉えきれてはいません。

(工藤教育長)

今回の意見を踏まえて、今後の取組を進めていきたいと思えます。

【協 議】

② 県立国東高等学校における新設学科・コースの構想について

(工藤教育長)

次に、協議の②「県立国東高等学校における新設学科・コースの構想について」久保田 高校教育課長から説明いたします。

(久保田高校教育課長)

<説明概要>

- ・ 国東高校の新設学科等について、5月地域説明会後の検討状況について説明
- ・ 土木を学ぶ環境がない国東高校に、新たに学科を設置し、県の土木人材を育成
- ・ 普通科の中に、難関大学など生徒の進路希望に応じたきめ細かなクラス分けを行う進学コースと、I T人材育成に係るビジネス系のコースを設置。
 - ・ 土木系学科の名称案は「環境土木科」。農業と工業の両方を学ぶ県内唯一の学科
- ・ ビジネス系コースの名称案は「ビジネス I Tコース」。双国校の商業活動等を継承するとともに、プログラミングなど I T関連科目を学習

(工藤教育長)

ただ今の説明について、質問・意見等のある方はお願いします。

(松田委員)

今、いろいろな分野で人材不足と言われている中、一人の人間が多くの資格を取り、いろいろな知識・技能を持って仕事に当たるということは、とても必要なことだと思えます。今までは、農業系の資格のみ、あるいは工業系の資格のみを

持った人をそれぞれ確保していたわけですが、やはり総合的な知識・技能を持つ人材を養成するという仕組みは素晴らしいと思います。また、プログラミングについては、小学校段階から学びが入ってくるわけですが、現在、小学校の先生方がこのことについて非常に不安を感じています。そこに高校生が出向いて行って、共に教えることができる人材が近くにいるということは、先生方としても非常に助かるのではないかと思います。こうした特色ある科目を見ていると、今、最も必要な分野ではないかと感じます。

(高橋委員)

環境土木科に新たな技術を投入し、ドローンなどを使って新しい授業を取り入れていくということですが、産業技術センターのドローン研究所などと、今から連携してやっていくのか、ということが一つの質問です。もう一つは、新設のビジネスITコースについて、先程、目指す進路で大分大学経済学部と協力するという話もあったのですが、授業カリキュラムについては、マーケティング戦略等それに特化した専門の教員がいて教えていくのかという点。その辺りを教えてください。

(久保田高校教育課長)

まずは、連携という部分ですが、県内では既にこういった先端機器を活用した企業も数社あると聞いていますので、そういったところでは、しっかり生徒たちの将来のことを見据えて、連携を図っていきたいと考えています。また、例えば、中津工科短期大学など県関連の施設も幾つかあり、そこでは基本的な技術の習得には欠かせないノウハウも持っていますので、そういった所ともしっかり連携を進めていきたいと考えています。

ビジネスITコースにおける専門教員という点ですが、実際には、マーケティング部分については、商業科の中で多くの科目分野があります。マーケティングに関わって、そこだけに特化した専門教員という種別の任用はしていませんが、その分野を得意とする先生もたくさんいらっしゃいます。また現在、多くの学校で商品開発をして、それを実際に地域で販売し、さらには、販売の成果を「よく売れたもの」「なかなか厳しかったもの」に分類し、そこはどういった違いがあったのか等を分析しながら次につなげるというビジネス活動もしていますので、そこはしっかり支援していきたいと考えています。

(高橋委員)

是非、失敗したときに、撤退する仕方も教えていただきたいと思います。大切なことなので、よろしくお願いします。

(林委員)

環境土木科について、「世界農業遺産探究」という科目がありますが、教える先生方は苦労されるのではないだろうかと思います。世界農業遺産で一番大事な

精神というのは、「昔のことを勉強するのではない」ということです。ため池のことはもちろん勉強するのですが、それが現代にどういかにされているのか、あるいは未来にどういかにすべきかということの研究するのが世界農業遺産なので、そのところを是非、先生方と研究してほしいです。例えば、国東の行入ダムぎょうにゅうですとか、宇佐にある近代的な最先端の水供給システムも同じ考え方です。そういうことまで含めて、昔のことを学ぶのは大事なだけでなく、それが現代にどう生きて、世界にどうつながっているかということ子どもたちに教えていただきたいと思います。

もう一つ、「起業家精神を持った人材を育成する」というものがビジネスITコースにあるのですが、例えば、親御さんからすると、子どもを学科に入れる際、「リスクの大きいところで勉強してその先はどうなるのか」と不安に思うのではないのでしょうか。国東には若い実業家がたくさん活躍しています。彼らがどんな苦勞をして、どういう生活をして、どれだけお金を稼ぎながら生きているかということ、成功例、あるいは失敗例の話も併せて伝えないと、親御さんが是非そこに入学させたいとは思わないのではないかと思います。実践的なことをして活躍している人がいるということ、高校の先生方が発掘して活用していくという活動をもっと積極的にやってほしいと思います。

(岩崎委員)

ビジネスITコースについては、目指す資格取得の内容を見ても、あるいは、今まで双国校での実績が評価された分野を今回の新しいコースでも引き継いでいくという方針ですので、うまくいくと思われま。

環境土木科については、非常に時宜を得た新設だと思います。地元の土木建設関係者の話を聞きますと、土木技術者不足が喫緊の課題であることが痛感されます。その意味では、県全体のバランスという面でも、人材不足に悩む土木建設業者の方々に必要な人材の供給校になるという面でも、土木系学科の空白地帯である国東地域に当該学科を設置するということは、時宜を得たものです。しかも、先程説明を受けた内容で取り組むということは、非常に素晴らしいことですので、是非、成功させていただきたいと思います。

(林委員)

ビジネスITコースの資料にAIという言葉が入っていますが、今後、関連の人材育成ということが非常に大事になってくると思います。AIに関して深層学習をする時は、過去の様々な出来事をインプットしなくてはいけないわけです。つまり過去のことを学んでこなければならぬ。そういう意味で、地域の人が過去にどういうことをやってきたかということ学ぶことが、次のAIにつながるということ、そして過去のことを大事にするということが大切になるのではないかと考えています。2・3日前、佐賀大学の先生のAIの話の話を聞いたのですが、農業分野をやるのであれば、農業のプロの意見をインプットしないとディープラーニングは起こっていかないとおっしゃっていました。そういう意味で、今

まで行われていた土木技術、あるいは土木建築が、どういいものになっていっているのかということ勉強した上に次のAI技術があるという点が大事なことです。

(鈴木委員)

大分県では大変災害が多くなっています。また、九州、全国的にも災害が多く、測量をされる方が大分だけではなく、九州各地であったり、中国地方にまで仕事に行くというのをよく聞きます。また、ドローンを使って測量をされる方と話す機会がありまして、その方いわく、現場では人をたくさん擁することができないので、ドローンを飛ばすことにより、人材が少ない中でも測量を効率的に行うことで対応しているとのことでした。ただ、測量ができて、いざ工事をしようとなると土木施工管理者がいない状況です。大きな公共事業の場合、土木施工管理技士資格の1級を持った方でないと、施工管理者になれないので、そういったことで工事が受けられない、工事入札不落札の現場がすごくたくさんあるそうです。災害が起きてしまっても、大分県では復旧にお金もかけますし、そこに県も人手を割いて動いてくれるのですが、肝心の現場で作業を行う業者が、いろいろな現場を掛け持ちしていて、忙しくて、なかなか復旧できないという現状があります。実際に災害が起きていて、必要な人材であるということをもう少し述べた方が、より必要な人材を育成するということにつながるのではないかと思いますので、是非、土木建築部から資料をもらってください。様々な事例がたくさんあります。そういった勉強をされた方が公務員としてもたくさん働かれていますので、そういう事例について民間の土木系会社の方の話や市役所の土木建築関係者の話を聞くことなどが大事だと思います。こうした学校を出て、その後どうなっているか、こういう仕事がある、ということをもう少し具体的に先輩から話をさせていただくとよいと思います。

今回の内容自体は大変素晴らしいと思いますし、保護者の立場からすると、いい学校ではないかと思うのですが、学んだ後に何ができるかということを書いていただくと、気持ち良く納得ができると思います。資格をいくらたくさん取っても、社会で活躍できる人材を育成しないと意味がありませんので、そこまでの情報があると更に分かりやすいのではないかと思います。

(工藤教育長)

それぞれご意見をいただきましたので、その点もしっかり踏まえながら、設置する・しないも含め、来年度の入学定員もありますので、いずれまた、協議・決定をさせていただきます。ありがとうございました。

(工藤教育長)

ほかにございませつか。

それでは、先に非公開と決定しました議事を行いますか、その前に、公開でそのほか何かございませつか。

(工藤教育長)

では、非公開の議事を行いますので、関係課長のみ在室とし、その他の課長及び傍聴人は退出してください。

【議案】

第1号議案 教職員の懲戒処分について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕在室)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案「教職員の懲戒処分について」渡辺 教育人事課長から説明いたします。

(説明)

(工藤教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

ほかにございませんか。

それでは、第1号議案の承認についてお諮りいたします。第1号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

(採決)

(工藤教育長)

第1号議案については、提案どおり承認します。

【議案】

第2号議案 大分県立図書館協議会委員の任命について

(2課〔教育改革・企画課、社会教育課〕在室)

(工藤教育長)

次に、第2号議案「大分県立図書館協議会委員の任命について」石井 社会教

育課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ただ今説明のありました議案について、質疑・意見等のある方はお願いします。

(工藤教育長)

ございませんか。

それでは、第2号議案の承認についてお諮りいたします。第2号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決)

第2号議案については、提案どおり承認します。

【議 案】

第3号議案 大分県立歴史博物館協議会委員の任命について

(2課〔教育改革・企画課、文化課〕在室)

(工藤教育長)

次に、第3号議案「大分県立歴史博物館協議会委員の任命について」木下 文化課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ただ今説明のありました議案について、質疑・意見等のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

ほかにございませんか。

それでは、第3号議案の承認についてお諮りいたします。第3号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決)

第3号議案については、提案どおり承認します。

(工藤教育長)

最後にそのほか何かございますか。

ないようですので、これで令和元年度 第11回教育委員会会議を閉会します。

お疲れ様でした。